

# 福島第一原子力発電所廃炉 :力を合わせて

ウィリアム・D・マグウッド四世  
NEA事務局長

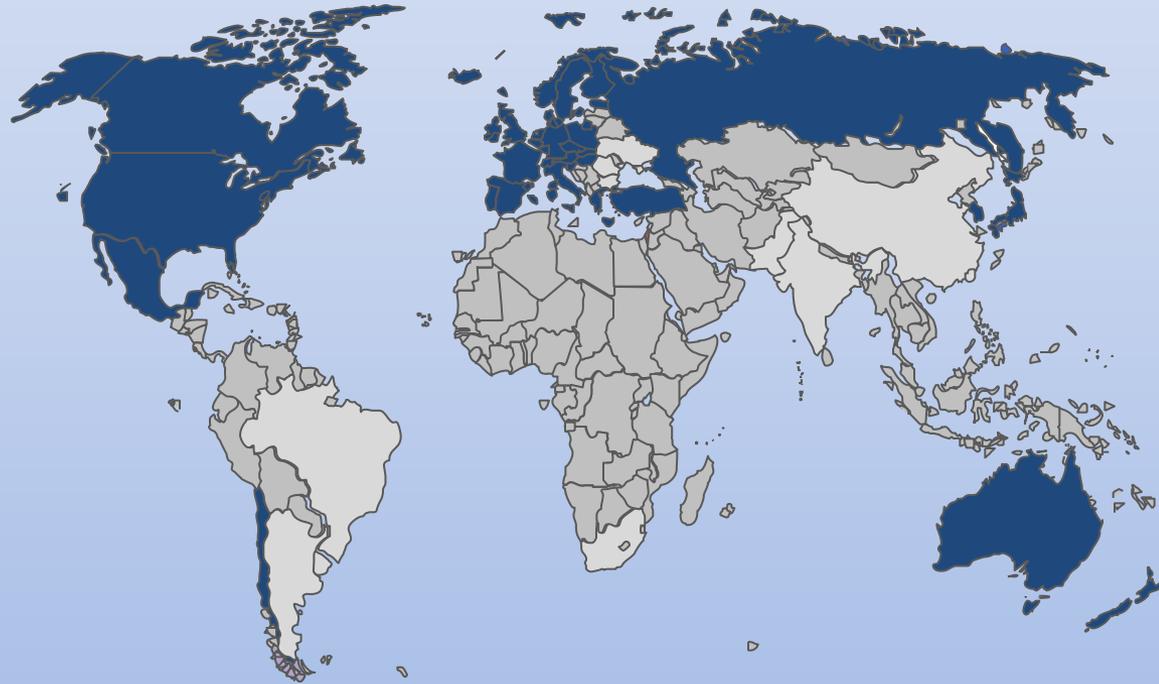
第2回福島第一廃炉国際フォーラム

2017年7月2日（日）

## NEA: 先進諸国をグローバルな課題へ

NEAの役割は以下のとおり。

- 国際協力を促進し、原子力エネルギーを平和目的で利用する際に安全性、環境配慮、経済性の面で必要とされる科学的・技術的・法的基盤を育成。
- しかるべき評価方法を開発し、原子力技術に関する政策決定へのインプットとなる、主要な問題に関する共通理解を築き上げる
- 科学技術上の課題に取り組む多国籍研究の実施。



世界の原子力設備容量の約90%をNEA加盟国が運転

## 原子力に関する意思決定への公衆参加 世界各国が取り組むべき継続的課題

- 2017年1月にNEAは、26カ国から140名以上の政府高官を招いて3日間のワークショップを催し、どうすれば原子力に関する決定への関係者（ステークホルダー）の参加が可能になるかを議論した。



- 参加者は、民間原子力技術のあらゆる分野を代表する顔ぶれ。
- 掘り下げた議論を交わし、各国の取組の比較を行うため、熱のこもった「円卓」式対話会を実施した。

## 原子力に関する意思決定への公衆参加 世界各国が取り組むべき継続的課題



## NEAワークショップから得られた知見

- **万能アプローチは存在しない**:ステークホルダー参加の過程は、国別の状況に適応させる必要がある。
- 当局は、参画及び討論に時間を割くこと。
- **時は敵にあらず**、その経過とともに安定する、信用に基づく解決に導いてくれる味方である。
- ステークホルダー参加は**不安を聞き取ることから始め**、次いでそれに対処する。当局は、分かりやすい言葉を使うこと。
- **初期段階で若い世代がプロセスに参加し**、大衆との持続的対話を確立する必要がある。
- ステークホルダー参加は「**投票にあらず**」。少数のよく知らされた上での意見は多数の分からずに発している意見を上回る。

## NEAワークショップから得られた知見

- ステークホルダー参加は公開情報に勝るものである。決定を下す前に、すべてのステークホルダーを考慮に入れること。
- 対面での会話、個人的交流、聞き取りの方法を学ぶことは、世界で共通して有益。
- 職員たちが同一人物からの同じ質問への回答にその勤務時間の80%を費やしたとしても、それは依然として状況の理解を説明する機会である。

**忍耐 – 対話 – 時間：  
関与の成功にはグループ間の会話が必須**

## 国際放射線防護委員会 (International Commission on Radiological Protection : ICRP) のステークホルダーとの対話: 優れたモデル

NEAは、2011年にICRPが開催した  
福島県被災地ステークホルダーと  
の対話会を支援している

- 放射線安全性に関する多くのステークホルダーの不安に対処
- 生活の主導権を取り戻してふつうの暮らしに戻りたいという住民の要求を反映
- 避難して帰還しない町民たちからの重要なメッセージ: 「安全が約束されていないならば家には戻れない」



## ステークホルダーとの対話から学んだ教訓: 国際的対話に類似

- 信用はステークホルダー関与の成功に不可欠の必須要素。
- ステークホルダー関与の成功とは、ステークホルダーが良く理解した上で行う意思決定を下し、将来の前向きなビジョンを立てるための情報と支援を与えることである。
- 個々人の決定（つまり、被災地に住み続けるか移住するか）の妥当性を明確化することが不可欠。
- 短期的回答のみでなく、ステークホルダーへの長期的技術支援を計画すること。これは多大なる資源消費を伴う可能性がある。

## ICRPのステークホルダーとの対話は続く...

	<b>Dialogue Focus Phase I</b>	<b>Date</b>
<b>1</b>	Initiation of a new process of discussion among affected stakeholders	November 2011
<b>2</b>	Understand what has been accomplished in Date	February 2012
<b>3</b>	Food production, distribution and marketing	July 2012
<b>4</b>	Education and memory	November 2012
<b>5</b>	The difficult decision to stay/return or go/not return	March 2013
<b>6</b>	The situation and challenges faced by the citizens of Iitate	July 2013
<b>7</b>	Self-help actions taken by local people in cooperation with experts	Dec 2013
<b>8</b>	The situation and challenges faced by the citizens of Minamisoma	May 2014
<b>9</b>	The challenges of raising children in a contaminated area	August 2014
<b>10</b>	The importance of tradition and culture for recovery	December 2014
<b>11</b>	The importance of measurements for recovery	May 2015
<b>12</b>	The future, in particular the future of the Suetsugi region	September 2015
	<b>Dialogue Focus Phase II</b>	<b>Date</b>
<b>1</b>	The Situation of Miyakoji Today	March 2016
<b>3</b>	Dialogue on the rehabilitation of living conditions: Iitate Village	July 2016
<b>2</b>	Dialogue on the rehabilitation of living conditions: Kawauchi Village	October 2016
<b>4</b>	Dialogue on the rehabilitation of living conditions: Futaba Village	March 2017
<b>5</b>	Dialogue on what do we need for our future: Date City	July 2017



## 福島産食品の信頼性： 順調な進展！

桃やその他の福島産食品が、スーパーマーケットの棚に戻ってきている



最近、福島牛農家が  
高品質牛肉の生産で  
優秀賞を受賞



## 経済協力開発機構（OECD）国際閣僚会議 福島県産の食品を提供



## 若干の最終的な見解

- 原子力に関わる決定へのステークホルダーインボルブメントはどこも苦勞している。福島県の状況はユニークだが、コミュニケーション上の課題は共通である。
- 両者に忍耐が要求される。問題が複雑・重要であるほど、正しい把握に要する時間は長くなる。
- ウェブサイトや顔の見えない組織ではなく、人間同士は信頼関係を構築することができる。
- **国際社会は、福島県民に引き続き寄り添っていく。福島県民は忘れられることはなく、また独りではない！**

## ご清聴ありがとうございました



More information @ [www.oecd-nea.org](http://www.oecd-nea.org)

*All NEA reports are available for download free of charge.*

Follow us:   